

No.44 レベッカ・ホーン

Rebecca Horn

「禅庭のためのエネルギー・バロメーター」

北川フラムさんのコラム / 1995 (平成7) 年 4月1日付 立川市市報記事より

2本の松が石庭のなかに静かに立っている。その枝から垂直に降りる金属の棒。その先はとがっていて地中に置かれている逆円錐のジョウゴに水滴をたらしているように見える。ガラスを二重に嵌めてあるこの逆円錐の金属は中に水をたたえているように美しい。

駐車場前のこの作品は水と大地と植物をめぐるエネルギーの循環をあらわしていて、ここにはこの街が松とともに自然と共存して成長するようにとの願いが込められている。

レベッカ・ホーンは世界各地の美術館で巡回展が催されている今もっとも注目を集めているドイツの女性作家である。ファーレ立川の依頼に行った時、この松を絶対枯らしてはいけないと何度も念を押された。それは今も緊張する思い出である。

作家のメッセージ / 日本住宅公団 (現:UR都市機構) 「ミニ通信」より

2本の松の木を
取り囲むエネルギーは
金属の棒によって
計測され、
じょうごを通じて
大地の中に映しだされる。
人々はこの2本の木を
自らのエネルギー棒のように
扱わなければならない。
養分を与え
水をやり
守り
そして
日の出とともに
日々対話しなければならない。